

2022（令和4）年度市政懇談会 開催結果概要

- 日 時 令和4年7月8日（金）午後6時00分～
- 会 場 阿寒町公民館 大ホール
- 出席者 22人

〔市長より説明（別途資料参照）〕

○都心部のまちづくりについて

●質疑応答

【参加者A】

JRはあと何年存続できるのですか。釧路駅で一日にどれくらいの乗客がいるのですか。私は、JRはもう15年20年でつぶれると思います。赤字で運営できなくなるのは当たり前だろうと思います。

農業振興について、市役所ではなにをやっているのですか。農業の事を知らない農林課の職員に農業振興どうやってできますか。昔は釧路の産業といえば漁業であり、日本一に何回もなっています。しかしそれだけ盛んであったのに、なぜ、産業が育たないのですか。これはみんな役所の人間の考え方の問題ではないでしょうか。

また、阿寒町と釧路市は対等合併ですか吸収合併ですか。対等合併であるならば、なぜ合併後に釧路市の条例が全てになるのでしょうか。合併した日に阿寒で火事がありました。1キロ隣に消防車があるのに、伝令するのに1時間もかかって消防車が来ませんでした。その数年後、布伏内の道路の法面が火事になった際もそうでした。すぐに来れる距離でありますのに、そんなに時間がかかるのはおかしいのではないのでしょうか。

【市長】

阿寒と音別と釧路市とは対等合併しております。平成17年に合併するにあたり、平成15年から2万数千にわたる項目を、一つ一つどのようにするか3町で協議しながら物事を決めておりました。

【参加者A】

例えば阿寒町では建物に対して基礎がない限り建物として認めていませんでした。しかし合併後、いきなり税金がかかるようになり、みんな怒っています。

【市長】

そういった項目についても合併前に決めたものです。基礎について言いますと、日本の法律の中で、基礎の有無にかかわらず、建物に対しては課税されることになっています。ただそういった状況の中で、それぞれの地方自治体に入る固定資産税というものは、各自治体で取扱いに違いがあるというのは現実の通りであります。

産業につきましては、農業振興、産業振興を進めていこうと考えております。しかし、良い時代の時というのはなかなか、政策とマッチングしにくいということもあると思います。その中で、今の状況を考えこれからどうするかといった時

に、過去のことも踏まえながら先に進めていかななくてはいけないという立ち位置で様々なお話をさせていただいているところであり、その際には、合併の際に項目調整し決めたことを尊重しお話をさせていただいております。

釧路市の水産のことでいいますと、日本全体の水揚げが1,200万トンの中、釧路市だけで130万トンの水揚げしており、日本一を誇っております。その中で、日本で1,000トンしか取れていなかったシシャモにもっと付加価値つけばよかったと今は思いますが、その当時130万トン獲れている時に1,000トンの内の500トンに目を向けるかどうかと考えると、当時の状況の中で一生懸命やった結果なのだろうと思います。

私は、昔のことは受け止めて、引き受けて、しかし反省するものは反省して、どういう形を進めていくかということが重要だと思っています。通常基幹産業というと1つですが、釧路は石炭・水産・紙パルプという3つの産業に恵まれており、恵まれているからこそあまり考えなくてもよかったと、そういった揶揄がされている特集を30年ほど前に読んだことがあります。そういった事実を踏まえ、次にどうするかということを考えていかなければいけないだろうと思っています。

【参加者B】

自分も明るい釧路市の将来像を想像したいとは思いますが、市長が言われたように、水産・石炭・紙パルプと次々と下がってきています。そして私たち農業の世界でも、やはり去年から今年にかけて資材高騰の問題があります。一番怖いのは、いつかは収まるだろうとそういうレベルの話じゃない点だと思っています。私も野菜農家ということで、化成肥料や土壌改良剤を、毎年春に一括で購入しておりますが、メーカーから来年どうなるかわからないとの話がありました。一割二割の値上げで済むのならまだいいのですが、原材料そのものが手に入りにくくなっていると言われたらどうにもなりません。円安や、ウクライナの件、そしてこの2年間のコロナの関係で観光業も非常に厳しい状況です。明るい未来を想像したいとは思いますが、この5、6年の現実が、釧路市の将来に影を落としているのも事実であると思います。鉄道高架等について、資料だけを見ると夢があっていいなと思うのですが、一次産業がこれだけ落ち込んでしまっている中で果たして財源の確保の他、どれだけ市民の理解を得られるのか、非常に不安な気持ちがあります。ぜひその辺も勘案して、今後の事業を取り組んでいってもらえればと思います。

【市長】

まさしくこの物価の高騰、資材の高騰につきましては、重く受け止めております。市といたしましては、交付金等々を活用し、所得の厳しい方々に対しての対応など行っておりますが、根本的なところにはなかなか行きつかないというのが実態であります。日本全体の話になりますので、現状も踏まえ、この7月にも国の方にも要請してまいります。その中で、市の物価情勢というものが毎月入りますので、どういった施策が必要かというのを、状況を踏まえながら進めております。そのうえで一次産業につきましては、確かに資材の高騰はありますが、やはり食がいかに重要かということが出てきていると思います。例えばいま、食料

につきましては、輸出するものには様々なバックアップがあります。しかし、そうではなく、国内で増やしていくということを踏まえ、いま37%である食料自給率を上げていこうという機運が高まってきていると認識しております。そういった意味で、一次産業の充実については、力をいれ、要請もしていきながら一緒になって取り組んでいくように進めていきたいと考えております。

【参加者C】

空き家対策につきまして、お話をさせていただきたいと思います。ここ数年、阿寒町では空き家がかなり増えてきている印象があります。そこで、我々阿寒町商工会青年部で昨年の秋、空き家バンクの視察として三重県尾鷲市に行き、そこで空き家活用の実情を見て来ました。そこでは、空き家を活用することで、移住者が増えていたり、空き家改装を若者のDIYで行うことで、関係人口が増えていたり、空き家を使うことでのメリットというものがかなりわかってきました。釧路市も北海道空き家情報バンクに登録はしていて、そこに釧路市のホームページがありますが、阿寒本町の登録が0件であり、町民にこのサービスを知らない人が非常に多いことが問題だと思っています。現状、阿寒本町で家を買う、借りるとなると、不動産屋もないため人伝いで借りることがほとんどであり、空き家は増えているのに借りる手段がないことが非常にもったいないと思っております。そこで、行政サービスとして阿寒町に特化した空き家バンクの設立をしていただけないかということが、ご提案としてあります。個人情報を取り扱うということで、難しい部分があると阿寒町行政センター長からも伺っておりますので、そういう場合は、NPOをサポートするような補助金の設立などにより、阿寒町の空き家を減らす取り組みというのを行政の方で行っていただきたいと考えています。

【副市長】

空き家を活用していくということは、非常に行政にとってはありがたいと考えております。特に、市内では空き家が非常に多くなってきており、隣家に迷惑をかけているような不良空き家への対応などを含め、空き家対策協議会というものを設置しており、その中で、空き家バンクも行っております。阿寒エリアの空き家についてもどのような形ができるのか、協議会の皆様とも相談させていただきたいと思います。そしてその結果をまたフィードバックさせていただきます。

【参加者D】

駅の高架問題について質問させていただきます。考え方として、車優先から人と公共交通中心のまちづくりという考え方は、大変素晴らしいと思います。この考え方のまちづくり等で脚光を浴びた旭川の平和通り商店街の買い物公園や、東京銀座の歩行者天国がありますが、始動から50年たって、いまの旭川の買い物公園の状況を見たとき、果たして北大通を狭くし、人を優先した時にそれで続いていくのかという疑問を一つ感じております。それから、阿寒に住んでいると、釧路市内に用事があるときは車での移動になります。そうすると駅前から北大通の片側4車線というのは大変運転しやすいものです。それを狭めるのは、車を

運転する者からすると、いかがなものかなという気がするの一点です。また、それなりの人通りがないと店や企業が北大通に来ないとのことですが、それよりも空きビル対策の方を先に、優先すべきではないかかと思えます。倒産企業等が、持ち主のままであり、対応策をとれないでいる状態で道路を狭くするなどしても、果たしてそれなりの効果があるのかというところを疑問として感じます。

【市長】

この計画というのは、社会基盤をどのような形の中で進め、それをどのように活用していくかということを考えてのものであります。北海道の旭川市は、店舗が先にあり、結果的に歩くという形でしたが、歩くことを中心に作られたプランというのは、北海道では釧路が初めてだと認識しております。釧路市は、歩く状況の基盤整備をしっかりと進めるということがベースにあり、そうすることによって、人がいるところに企業等が来る。確かに施設等があれば人が集まるというのはその通りですが、企業側から考えると人のいるところに出てくるものであります。そして、地方都市において、車は必要なものであると考えております。しかし、にぎわいを作らなければ利便性が増してこないということもまた一つ背景にあるだろうと考えております。衰退させず、発展できる基盤を地方の中で築いていくということが大切であろうと考えております。釧路市の人口は人口減少で16万2千という数字ですが、管内で言うと22万人、根室まで言うと約30万人です。ここの生活圏という形で特に医療などを担っておりますが、これに、文化や、芸術などの部分も踏まえていながら、エリアの中でそういった形が出来てくると、まさに発展させていける環境になるだろうという風に考えているところでございます。

そしてもう一点、空きビルの問題についてです。これについては、6年前に空き家対策特別措置法が国にできたときから、根本的な問題は解決できる法律ではないということで、ずっと国に法律の改正を要請してきております。空きビルは東京や札幌等地価の高いところには存在せず、放っておいてもコストがかからない全国の地方都市に存在する状況です。建物について、公金で取り壊すことはできますが、取り壊した後はその所有者の物件になります。そういった、義務を果たしていない人の権利を優先するような法律を改善できれば、空きビル問題は解決できるものと考えておりますので、その点について国に要請しているものです。

【参加者E】

簡単に3つ4つお話しします。1つ目ですが、いま札幌で札幌オリンピックをやるという話がでており、帯広でスピードスケートをやるということですが、「氷都くしろ」という呼称に乗り、アイスホッケーリンクがある釧路市に誘致しようという気持ちはないのでしょうか。

それから、北大通の話についてです。私は28歳まで釧路市に住んでおり、当時の事はよく知っていますが、北大通をこれから繁栄させるまちづくりをしても、石川啄木の時代のようになるのではないですか。北大通も昔の栄光がいまどこにあるのかと、そういう風にならないようにしっかりやっつけていかねばならないといけないと思えます。そして、先ほど北大通の駅の関係で、懇談会をやった

と言っていましたが、阿寒町では一度もなかったと思います。議会報告の中で、1回やったと書いているのですが、その広報にも何もありません。

【市長】

札幌オリンピック・パラリンピックに向けては、釧路市も今年の5月、全道市長会の中でこの誘致をしっかりと進めていくということで連携とっており、こういった中で進めていきたいと思っています。その中で、アルペンについては誘致できるかと思っています。札幌と一緒に35市で決議しておりますので、連携とりながら、進めていきます。

【都心部まちづくり推進室長】

それでは、釧路駅周辺の市民説明会についてご説明をいたします。まずは昨年度、当初は阿寒町を除いて実施しておりましたが、議員の方からぜひとも阿寒でもやってほしいという要望があり、昨年12月に阿寒町公民館で、お声がけをさせていただきました。しかし、どなたも参加される申込が無く、中止となってしまったものです。今年度につきましては、8月2日に阿寒町公民館で、駅周辺のまちづくりの説明会を開催いたしますので、ぜひとも足を運んでいただきたいと思っています。

【参加者E】

わかりました。しかし、広報はされてないと思います。広報されていたのであれば、私は間違いなく行っています。8月にまた改めてやるのであれば、わかりました。

【都心部まちづくり推進室長】

ぜひとも足をお運びください。よろしく申し上げます。広報紙の部分につきましては、確認をさせていただきます。市の広報紙に掲載がなかったということであれば、広報の仕方が我々の方で足りなかったかと思っていますので、確認してお答えいたします。

【副市長】

広報が足りなかったとのことで、大変申し訳ないと思っています。今回につきましては、しっかりとみなさんに広報させていただきます。ぜひ、ご参加いただいてご意見たまわりたいという風に思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【参加者F】

先ほどの空き家の問題に多少絡むのですが、長期滞在についてです。釧路市が涼しいから来てという内容に、阿寒町や温かい地域が現状入っていないので寂しいなと思います。現状受け入れる体制ができていないので、標茶町で短期滞在・長期滞在用に民家を改装した事例等を参考に、阿寒町の空き家を上手く活用するなど、そういった取り組みについてお話しできる機会があるといいなと思います。現状宿泊施設が少ないことに問題点が集約されているかと思っていますので、阿寒町で泊まれる場所、もしくは新規で民宿等を始めるための補助金等取っ掛かりになるようなものを釧路市として考えていただくと嬉しいです。上士幌町に泊った際、ふるさと納税で道の駅など整備されており、内地から企業も入ってきてドローンショーが開催されているなど、すごく活性化しているなと感

じました。阿寒町は人口が少ないですが、僕ら青年部もこのまちを元気にしていきたいと思っております。ぜひ阿寒町単独で使えるような補助金等があると嬉しいです。最後に、高速道路についてです。白糠インターチェンジにトイレがあり、この先釧路市までつながったとき、高速道路でトイレができなくても阿寒町の降り口でスタンドやトイレ、コンビニ等があるなどの案内の看板を設置できないでしょうか。このまま高速が釧路までつながると、素通りするまちに戻ってしまうのではと思いますので、その辺もご検討していただけたら助かります。

【市長】

長期滞在について、私は、阿寒は阿寒で進めていくという形は全然問題ないと思っております。釧路の長期滞在は、最高気温が22.6度という釧路の夏の涼しさを活用し、その中で連携をとって行ったものであり、行政が窓口を行うと信頼関係があると言っているところでもあります。釧路市の中で全て一緒にする必要はなく、広大な地域で特徴があるわけですから、音別は音別で、阿寒は阿寒で特性を活かしながら進めていけばいいことだと思いますので、こんな形で進めていくということをお話しいただければありがたいと思います。

併せてその中でいろいろと進めていくのに、ふるさと納税のなかでも、企業版ふるさと納税というものがあります。これはこういった事業を行うのかというプランニングとセットになっております。阿寒で何かを展開していくというやり方もあるかと思っておりますので、こういった仕組みを使っただけであればありがたいと思うところであります。

【副市長】

パーキングエリアにつきまして、確かに浦幌のパーキングエリアを超えると、トイレは白糠のインターチェンジにしかないものですから、その以东になると心配になるというのが1点と、それから通過型交通になってしまうのではというなかで、阿寒のインターチェンジにサインをというお話でよろしいでしょうか。

【参加者F】

そうですね、これから計画でトイレを設置するかどうかわからないと思うので、ぜひ、釧路まで我慢できない人はここで降りたらスタンドやコンビニがあるという案内等があるといいかと思えます。宿泊等アクティビティのメインは道の駅になると思うので、ここで降りると阿寒丹頂の里があるという案内を出したいと思っています。

【副市長】

阿寒インターチェンジのところにある道の駅まで6キロとい案内も市がお願いしてつけてもらったものです。確かに由仁パーキングエリア以东はガソリンスタンドがありませんというサインが出ており、トイレも同様の話だと思うのですが、これは管理者である開発建設部とどのような形ができるかご相談させていただきたいと思えます。

【参加者G】

まず第1に、令和4年度の阿寒地区の工事予算がついているかどうか。それと、

阿寒診療所の医院長先生の家を解体したようだが、医院長先生の自宅を建てる予定があるのか。あるのであれば、どのくらいできあがるのかお聞きしたい。

それと、富士見公園について。富士見公園の森の中に毎年フクロウが来ます。阿寒町行政センターの人が、老木を踏まないようにという看板を1枚立ててくれたのですが、500mほどある公園の中にたくさんの老木が立っており、あちこちから人が入ってきてしまいます。フクロウが来るのはだいたい3月の終わり頃なので、それにあわせて4、5枚の看板を立てたほうがいいのではないかと思います。

【阿寒診療所事務長】

私から阿寒診療所の今解体している住宅について、回答させていただきたいと思います。解体後につきましては本年度の予算で、住宅を新築する予定としております。予算につきましてはだいたい4,300万円ほどの予算という形で事業をすすめているところでございます。

【都市整備部長】

フクロウの富士見公園の看板の関係ですが、現地の状況を見せていただき、看板設置可能かを確認し、検討させていただきたいと思います。

【参加者G】

中標津や別海では、森林の業者はフクロウがそこにいたら一時的に仕事を中止させるという措置をとっているようである。

【市長】

それはまさしく、私たちは環境や野生生物をしっかりと守っていくということがまた強みでございます。先日もクマゲラの営巣がカムイルミナのコースの中にあり、天然記念物だからということではなく、野生生物との共存等も必要だと思いますことから、もし営巣しているとなったら、環境は守らなければなりません。そのために必要な、こういった形をとるかということはしっかりと考えなければならぬものだと思います。

【参加者D】

阿寒本町地区の部分でのお願いです。昨年11月に中阿寒の阿寒川橋から北町にかけて、大雨で水が増水し、アラートになった状態が続いたのですが、記憶している限り、過去15年間で3回目です。一度河川工事は行ったようですが、昨年11月のときに水が上がってきたということはあまり効果がなかったのだと思います。市としてハザードマップを今年度作成するというものが新聞にでていましたが、それよりも2度と水が阿寒川から上がらないよう、住宅地側に堤防を作るという部分を国に要望させていただきたいというのが1点です。

それともう1点、8月の20日・21日に市長が実行委員長という形でエンジン02が釧路で行われると思いますが、一過性で終わらせないよう、例えばこの後も5年ごとにエンジンの03、04、05というような形で継続して、人づくりのためにもこういう機会を作っていただけたらと思います。この2点お願いします。

【都市整備部長】

河川について私から回答させていただきます。ご指摘のとおり、阿寒川は過去

に平成21年、28年それから先日、令和3年11月に溢水しております。とくに北町地区のところは、住宅地が近いということで、かなり住民の方も心配されているかと思えます。ご存じのとおり阿寒川は2級河川であり、北海道管理ということで、市としましても北海道に要望を行い、阿寒川自体の工事は平成22年から進められております。しかし、延長が長いこと等もあり、なかなか進んでいないというのがご指摘の実態になっております。その中で、北町地区は住宅街も近いので、緊急的に対策が必要であるということ、毎年ある会議の中で釧路建設管理部の方にも、要望をさせていただいております。特に北町地区につきましては、堤防を先に整備するのか、川の流れを阻害する支障木を撤去するのか、河川の状況をしっかり把握して進めていきたいということで伺っているのですが、そういった部分の実施を要望しているところがございますので、これからも対策は十分考えていきたいと思っております。

【市長】

どうしても予算の上限がある中で、道路河川の事業についても時間がかかるということがあるのですが、防災の観点を用いてこのスピードを速めていくということで、水位周知河川の指定の仕組みがあります。これまでほとんど北海道では指定していなかったのですが、阿寒川の下流部分が水位周知河川に指定をいただきました。上流部分についても、防災の観点から指定していただき、そしてその対応をしっかりとしていきますというような考え方で、北海道にもこの要請をしているところであります。

どうしても全体で言いますと、日本の河川は手つかずのところ恐ろしくくらいたくさんあり、その予算の上限がどこの部署でも緊縮が続く中で、事業ができていないという、非常に切ない状況がありますが、命を救うという観点からも、防災事業は重要なものです。今、緊急で5カ年で15兆円の予算をとっていますが、その後もしっかりと防災減災の予算は国で確保してほしいと、いまから要請しているところでございます。

そしてエンジン02であります。これはまさしく継続していければと思っております。ほかの都市ではエンジン05など、こういう風にやっているところもございますので、年数や、人数についても検討し、しっかり続けていきたいという風に考えております。